

昭和59年(3月)卒、阿部靖雄
教育学部 社会専修

トヨタ寮の思い出

昭和の時代、越ヶ谷駅から西の方向、徒歩二十分程、赤山町に「トヨタ寮」と呼ばれていた男子寮がありました。鉄筋コンクリートの四階建ての建物で、百名近くの男子学生が生活をしていました。文教大学の越ヶ谷校舎まで自転車で約三十分の距離にありました。ほとんどが文教大学の学生でしたが、独協大学やその他の大学の学生も三割程いました。

部屋は個室でした。食事は、朝食と夕食と

一階の食堂で食べました。月に数回、四つの大きな寸胴鍋に肉がたっぷり入ったバイキング形式のカレーライスメニューは大好評でした。風呂は、大きな湯舟が二つあり、二日に一回の入浴でした。ときどき管理人に無断で、親しい友達や帰宅困難の学生を泊めたり、食堂の余った食事を食べさせたり、風呂に入らせたりして、それがばれて、よく叫ばれていた寮生もいました。

先輩と後輩の関係は、きびしいルールはな

3

く自由な寮団気でした。地方出身の新生に
 先輩達が学生生活について、やさしく、たく
 さん教えてくれました。大学の単位取り方、
 マーじゃん、安くて旨くてボリュームの多い
 食堂「大雅」^{たいが}、当時は珍しかつたデ「カウン
 ト」^{たい}、ポップ「ロジャリス」などなど。わたく
 しにとっても親切にアドバイスしてくれたのは、
 混声合唱団「コール・リンデ」の先輩方で、
 それが縁で誘われ入団し、音痴なのに、なぜか
 四年間活動させていた。ただ、これになりました。

4

音楽系のサークルの寮生が多くいたことを
 記憶しています。夜、聞こえて来る練習の音
 の響きは「悪魔のフルート」「死のマンドリ
 ン」などと呼ばれていました。いたる所で、
 発声練習やドイツリート、カンツォーネなど
 も聞こえていました。

空腹の寮生達が、近くに住む友人達のアパ
 ートに自転車で訪問し、冷蔵庫の中の食べ物
 を食い尽くして去って行くというので「ハイ
 エナ軍団」と呼ばれるメンバー達もいました

(トヨタ寮の思い出)

八時が門限時刻で、九時に施錠されてしま
いました。遅刻して中に入れなくなつた寮生
は、(携帯電話は無い時代なので)親しい友達
に大声や投石で何とか知らせてこつたりとド
アを開けてもらつていました。まれに水道管
をはい上がり、いつも開いていた二階のトイ
レの窓から帰宅する豪傑もいました。

5

寮生同志はけつこう仲が良く、よく助け合
つたりしていたと覚えています。高熱の寮生
がいれば、付きつきりて看病したり、食堂で

6

お粥を作つてもらい食べさせたりしていまし
た。骨折や大怪我で風呂に入れない寮生がい
ると体をふいてあげるなどしていました。何
人かの寮生の部屋が留まり場になつて夜遅く
までよく遊んだりもしていました。

トヨタ寮の跡地には、現在、高級マンション
ンが建つています。卒業生の多くは教員とな
つたり、大企業の幹部になつたり。好お好ま
ざるに関係なく、濃い人間関係に巻き込まれ、
たかさんの貴重な経験をしたトヨタ寮でした